

小金原
地区社協

ふれあい



🍎🍌 ふれあい会食会で配食を実施 🍌🍎🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌🍌

ふれあい会食会は小金原に住む独り住まいの高齢者を昼食会にお招きする活動で、小金原地区社協の会食部が担当しています。対象者は民生委員を通じて登録された72歳以上の方々で、夏季を除いて毎月1回市民センターで開催しています。会食部に登録しているボランティアは70名余りで、回毎に40名余のボランティアが調理、接待、設営などの仕事をします。

新型コロナの感染拡大で会食会は1年半以上休止していましたが、会食部では緊急事態宣言が解除されたのを機に感染対策をしながら弁当の配布をすることにしました。

今年度第1回目は10月20日、小金原市民センター2階のホールで行なわれました。今回は人数を対象者の3分の1に絞り、根木内、1丁目、2丁目、3丁目、団地自治会(3-18街区)の方が対象となりました。他の地区は11月と12月に行う予定です。

今回会場に来られた方は28名で、ホールで懇談の後、ボランティアが手づくりした弁当を受け取っていました。参加者からは、「長い間会食会がなくて寂しかったので、再開されてうれしい」などの声が聞かれました。



ソーシャルディスタンス！



お弁当の中身はなんでしょう？
久しぶりの調理にボランティアの方の気合いも充分！



第23回 ふれあいグラウンドゴルフ大会

10月23日小金原地区社協主催「ふれあいグラウンドゴルフ大会」が、小金原中央公園で行われました。前回の大会が新型コロナの蔓延で中止となり、2年余りを経て、また場所を変えての開催でした。町会やボランティアグループなど20団体120人の参加がありました。

当日は前日の雨天から一転して快晴となり、絶好のグラウンドコンディションに恵まれました。日本グラウンドゴルフ連盟の専門家である小金原在住の方の指導の下で、参加者は8ホールを2回プレイしました。



優勝の6-7住宅組合



ホールインワン？



急遽グリスロの試乗会...

普段からグラウンドゴルフを楽しんでいる人もいれば、年に1～2回という人もいましたが、ボランティアとして活動する仲間と一緒にプレーを楽しんでいました。プレーの後、結果を待ちながらホールインワンゲームが行われました。

優勝チームは6-7住宅組合で、合計スコアは246、ホールインワンは4回！個人優勝は6丁目町会の西川貴士さん。その他飛び賞、ブービー賞などの発表もありました。感染対策のために昼食は弁当の配布となり、参加者は弁当を受け取って解散となりました。

町会へサロン準備金を提供



地区社協では高齢者の集いの場(サロン)を開催している町会・自治会に対して例年支援金を提供していますが、今年は新型コロナのために開催を見合わせている町会が多くなっています。その中でもいくつかの町会では感染状況が落ち着けばサロンを再開しようと準備を進めているところもあります。地区社協ではそのような町会を支援しようと、準備金を提供することにしました。町会へ呼びかけたところ10町会から希望がだされたので、各町会へ1万円の準備金を提供しました。

「子どもの貧困」について研修会を開催

小金原地区社協は8月5日、小金原市民センターホールにおいて「子どもの貧困」についての研修会を開催しました。講師は「こがねはら子ども食堂」代表の高橋亮さんと栗ヶ沢中学校勤務のスクールソーシャルワーカーである神山裕也さんでした。参加者は地区社協評議員を中心に46名（講師含）で、感染対策をしておの開催でした。

子ども食堂は、各地のボランティアによって運営されている「子どもが一人でも来られる無料または安価な食堂」です。草の根的に全国に広がって来ており、昨年末で松戸市内に21箇所、全国で約6千箇所と言われています。その背景には家計の貧窮や暴力、育児放棄など子どもの健全な育成を阻む「子どもの貧困」の問題が大きくなっていることがあります。

小金原も例外ではなく、そのような子どもたちのことを知った高橋さんは2016年に「こがねはら子ども食堂」を始めました。週に一回土曜日毎に、学習支援（よっけ塾）と合わせて開催しています。運営は趣旨に賛同するボランティアの人々とともに、周りの協力も得ながら行っています。

こがねはら子ども食堂に来ている子どもたちの様子について高橋さんは、自分のことを気遣ってくれる大人と接することで生きる力を取り戻しているように見えると話していました。そしてこれからの活動のために地域からの参加と支援がとても大事とのことでした。

次の講演テーマはスクールソーシャルワーカー（SSWer）についてでした。SSWerは児童が直面する苦しみや悩みについて、家族や友人、学校、地域に働きかけ、福祉的なアプローチによって解決を支援する専門職です。松戸市では市職員をSSWerとして学校に配置するという先進的な制度を採用しています。講師の神山さんは栗ヶ沢中学校に常駐するSSWerとして小金原の5校を担当しています。

神山さんは、SSWerの活動を通じて学校と地域の連携が強まるよう努力したいと話していました。

また、神山さんの前職が他市の社協職員であったことから、小金原地区社協との協力関係にも関心を寄せていると話しました。

「子どもの貧困」について地区社協がこれからどう関与していくべきか、考えさせる研修会でした。



講師の高橋さん(上)と
神山さん(右)



小金原 グリーンスローモビリティ 実証調査



グリーンスローモビリティは7人乗りの小型自動車で、時速20kmを越えないようになっています。ゴルフカートをベースに高齢者でも乗り降りが楽にできるように設計されています。これを地域で走らせ、高齢者がこれを利用することで、高齢者の生活がどう変わるのか、その結果介護を必要とする高齢者がどの程度減るのかを調べる実証調査が小金原で行われています。

調査は松戸市、千葉大学予防医学センター、ヤマハ発動機(株)が共同で行っており、小金原地区での実施を小金原地区会が担当します。

10月24日に小金原商店街広場でオープニングセレモニーが行われ、松戸市長などからの挨拶と趣旨説明後、9丁目太鼓の演奏と試乗会がありました。

調査期間は10月25日からの8週間(12/19迄)で、この間グリーンスローモビリティは毎日決められたコースを走ります。運転は地区会が募集した地域住民のボランティアが交代で行ないます。コース上のどこからでも、誰でも乗ることができますが、乗降時にデータ収集へのご協力をお願いしています。



・・・編集後記・・・

地区社協の活動はコロナに弱い。「ちょっといっぷく」も「おやこタイム」も「ふれあい会食会」も中止になってしまいました。市社協の金婚記念品は届けられましたが、地区社協の祝賀会はできませんでした。恒例の福祉フェアも中止。それでも、何とかできる形だと、研修会、グラウンドゴルフ大会、ふれあい会食会による弁当の配食が実施されました。

感染者は少なくなっていますが、第6波の懸念もあります。その中で地区社協の各部はできる形を模索しています。その姿をお伝えしていきたいと思います。

広報部長 吉田 和男